

1. 訪問概要

2025年10月18日(土)、広島大学教育学部の丸山恭司学部長、三時眞貴子准教授、金鍾成准教授は、ブラジル・サンパウロ市に所在するヒロシマ文化センター(Centro Cultural Hiroshima do Brasil)とその内部に設置されている広島大学サンパウロ・ブランチを訪問した。今回の訪問では施設の現状を把握するとともに、センターの理事長および関係理事らとの面談を通して、今後の連携・協力の可能性について意見交換を行った。

ヒロシマ文化センター内の広島大学ブランチは、2009年4月27日に設置された広島大学の海外拠点であり、広島大学の国際教育・研究ネットワークの一翼を担っている拠点である。このセンターの設置により、ブラジルおよび中南米地域からの学生受入れや研究者交流が促進されることが期待されてきた。

2. 施設構成と環境

ヒロシマ文化センターは、講義室、会議室、図書資料室、多目的ホール、体育館、コミュニティ活動スペースなどから構成されている。訪問時に確認した施設は次の通りである。

- セミナー室・ワークショップスペース
小規模な講義や討論、ワークショップが開催できるスペースが複数ある。
- 体育館・スポーツ設備
卓球などのレクリエーション活動ができる体育施設が整っている。
- 図書・展示スペース
図書コーナーや歴史・平和に関する展示コーナーがあり、自由閲覧が可能である。
- コミュニティスペース・共有空間
共同で食事や対話が行える場が確保され、来訪者や地域住民が集い、日常的に交流している。
- 生活支援設備
長期滞在者向けの宿泊スペース、シャワー・洗濯設備や共用キッチンなどが整備されており、滞在型の活動にも対応している。

また、日本語教育プログラム(初級～上級、子ども・青年・成人対象、対面・ハイブリッド・オンライン)が運営され、日本文化や日本語への関心をもつブラジル人や日系ブラジル人が学びを深める場となっている。

3. 広島大学サンパウロ・ブランチの役割

広島大学サンパウロ・ブランチは、広島大学の国際化戦略の重要な拠点として位置づけられている。このブランチを通して、以下のような教育・研究活動が進められている。

- 日本からの学生の派遣および現地研修の実施
- ブラジル国内の大学・研究機関との共同研究・交流
- 日系移民史や平和教育に関する学術交流活動
- 地域市民を対象とした公開講座やワークショップの開催

これらの取り組みは単なる「海外分校」に留まらず、双方にとって有益な関係形成を目指している。また、センターは植民地や移民の歴史、戦争と平和の記憶といった重層的なテーマを媒介として、教育と対話の場をつくることに努めている。

4. 平和教育及び市民性教育としての意義

ヒロシマ文化センター内には、ヒロシマ・ナガサキやブラジルの歴史、移民や戦争、平和に関する資料が展示されている。日本とブラジルの国旗を並べた「平和ワークショップ (Workshop de Paz)」のポスターは、単一の視点による歴史理解にとどまらず、双方の歴史的記憶を交流させる象徴として機能している。

このような展示・学習の場は、被害者・加害者という単純な枠組みを超え、移民コミュニティが共有する複合的な歴史経験に基づいて、地域の市民自身が平和の意味を再解釈し、主体的に対話する機会となっている。

5. 総合評価と今後の示唆

ヒロシマ文化センターおよび広島大学サンパウロ・ブランチは、単なる大学の“海外事務所”ではなく、地域に根ざした学術・文化の拠点として重要な役割を果たしている。具体的には次の点が評価できる。

- 地域密着型の学術・文化拠点
研究・教育・生活・文化交流が混じり合い、地域住民と学生・研究者が日常的に交わる空間となっている。
- 記憶に基づく平和教育の実践
移民史や戦争・平和のテーマを教育資源として活用し、記憶を共有する学びの場が構築されている。
- 生活の中の公共性の創出
共同キッチンやスポーツ活動、ワークショップ、展示など、多様な活動が一つの場で有機的につながり、教室を越えた教育実践が展開されている。